事例No.	2782
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	株式会社NOTE

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・公共施設活用 ・関係人口

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

歴史的建築物など地域の資源を活用した観光まちづくり事業「NIPPONIA」

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



歴史的建築物など地域の資源を活用した観光まちづくり事業「NIPPONIA」

株式会社NOTE（のおと）

DATA

事　例　名：歴史的建築物など地域の資源を活用した観光まちづくり事業「NIPPONIA」
所　在　地：兵庫県丹波篠山市二階町二階町18-1
連　絡　先：TEL 050-6877-6141
　　FAX 050-6868-4730
　　E-mail pr@plus-note.jp
ホームページ：https://team.nipponia.or.jp/

取組の概要

株式会社NOTEは、人口減少により存続の危機がある地域の維持を目的に、その地域に残る地域資源（歴史、文化、暮らしなど）を軸とした持続的な観光まちづくり事業「NIPPONIA（ニッポニア）」を全国30地域で展開（2022年8月1日時点）。具体的には、地域内に点在する空き古民家等の歴史的建築物を改修し、そこに現代のニーズに合った新しい機能を付加して運営事業者を呼び込み、空き家の活用を実現している。

評価された点

●古民家再生事業から始まり、地域の景観形成と稼得機会の創出に向けた取り組みを地道に展開し、そのノウハウを他地域に移出している点を評価。
●「観光」×「古民家再生」の先駆けとして、観光による地方創生をけん引してきた実績があり、丹波篠山での取り組みを全国展開させ、さらに「NIPPONIA」というブランドを確立させてインバウンド振興にも貢献している実績を評価。
●各地で空き家が増えて社会課題となっている中、古民家を活用した宿や拠点が着実に増えており、その立役者のひとつがNOTEであると考えられる。民間で運営している点も評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2009年
一般社団法人ノオト設立＆最初の古民家活用事業に着手。
篠山市（現：丹波篠山市）内の限界集落、丸山集落で集落再生を目的に1棟貸しの宿泊施設「集落丸山」開業。

・篠山城下町内の空き家増加、宿泊施設がなく日帰り観光客のみで地域にお金が落ちづらい構造。
・兵庫県の「国家戦略特区制度」の活用により分散型ホテルを実現。

2015年
・篠山市で篠山城下町ホテルNIPPONIAの開業。

2016年～　株式会社NOTE創立
・「篠山城下町ホテルNIPPONIA」の開発事業で古民家改修を軸としたまちづくり事業の枠組みを構築。全国で同じような課題を持つ地域で同様の事業を展開するために法人化。本事業を「NIPPONIA」と命名。

2017年～　JR西日本グループとの資本提携開始
・沿線地域活性化の課題を持つJR西日本グループと連携。事業スピードが加速。

旅館業法の改正
・篠山での事例も実績となり、旅館業法が改正。戦略特区の制度がなくても全国で分散型ホテルの開発が可能に。

2019年
・全国のNIPPONIA事業による宿泊施設の開業が10地域到達。

2020年
・全国のNIPPONIA事業による宿泊施設の開業が20地域到達。

2022年
・全国のNIPPONIA事業による宿泊施設の開業が30地域到達。

今後の展望
日本独自の価値は、各地域の文化や暮らしにあり、その多様性が今後の日本を創っていくという考えに基づいて、丹波篠山での開発をモデルケースに、現在30地域で展開しているNIPPONIA事業を全国50地域まで拡大。地域活性化を課題とする行政、金融機関、法人との連携体制を構築し、NIPPONIAを軸に地域資源を活かしたまちづくり活動の基盤づくりを目指す。

受賞者のコメント

私たち株式会社NOTEは日本の各地域でそこに暮らす人々が営み、紡いできた暮らし文化を継承することを目的に、NIPPONIAの事業に取り組んでいます。この活動が「ふるさとづくり」という名前を持つ賞を受賞出来たこと、大変嬉しく光栄に思います。

昨今における人口減少時代に何を残すべきかが問われる中「ふるさと」を再定義していきつつ、我々もNIPPONIAの活動を通して希望と可能性を感じられる日本の未来を創っていきたいと思います。